



拠点施設の整備を

安部 誠也 議員

(※)観的壕
銃砲の射撃試験場で発射した弾丸の命中状況を観測する場所

三瓶山は、昭和38年に国立公園指定され、来年で60年を迎える。歴史や文化も多くあり、江戸時代の「三瓶山十二勝」の巻物に、角井地区の2か所が描かれている。また、東の原、西の原には、旧日本陸軍の演習地としての痕跡が各所に残っている。角井地区にも標的を監視する観的壕(※)などがあり、後世に語りつがれるよう映像化して残すべきと考える。

大田市や島根県にも協力を要請しPRしてはどうか。



東の原観的壕(角井)

一般 質問

令和4年 9月定例会

多様な居場所と 学習の機会を

戸谷 ひとみ 議員



Q不登校児の居場所づくりを

町が運営する「めだかの学校」は中学生以上、社協が運営する「ぶらっと」は小学生でも利用できるが、毎日開所されていない。学校に行かない、行けない小学生はどこで過ごしたら良いのか。家庭の事情も様々なので、自宅以外の居場所も必要だがどうか。



「ぶらっと」はあたたかい家庭の雰囲気

A検証し改善へ

町長塚原隆昭

場所を必要としている人がいるのは承知している。今の仕組みがニーズに合っているのか検証し、可能な限り改善したい。

Q多様な学びの場の提供を

「めだかの学校」も「ぶらっと」も学習の機会は提供されておらず、学校に行かない子が学べる環境づくりが必要。学校に行かない選択をした子が全員、学習したくないわけではない。多様な「居場所」と「学習の機会」が保障されれば、子どもたちは自分に合う場所、そして自分のペースで学ぶことができるとも言われている。

例えば、不登校児を対象にしたオンライン家庭教師や不登校専門塾と「家庭」または「めだかの学校」や「ぶらっと」を組み合わせれば、学校に行っていないかどうかに関わらず、個人が尊重され、魅力のある教育を受けられると思うがどうか。



自由に過ごせる居場所「ぶらっと」

A課題整理が必要

教育長大谷哲也

オンライン家庭教師なども、不登校児の学習を補うという効果、あるいは学校に通えない子どもが通うきっかけになるという機能はあるかもしれない。

また、学習支援館でオンライン対応を行うことは、受講生の質問への回答や小テスト等については技術的には可能だが、一番肝心な自主学習の個別指導が難しいだろうという課題も残っている。

講師と生徒の関係性を大切にして、きめ細かな個別指導に生かすという学習支援館の方針が信頼を得ている面があるので、これらの課題を整理する必要はあると考える。

Q三瓶山に残る歴史遺産の保存を

A保存を提案

町長塚原隆昭

歴史文化についても、観光誘客における新たな視点として加えていけば非常に面白いと感じた。後世に残していかなければならない。1市2町で構成される三瓶山広域ツーリズム振興協議会で、地域資源を観光誘客の新たな切り口として掘り起こし、PRの方法や記録の保存を提案したい。

Q小さな拠点づくりは

A地域コミュニティを維持し持続可能な地域づくりを目指すための取り組みとして「小さな拠点」づくりが注目されている。

地域コミュニティを維持し持続可能な地域づくりを目指すための取り組みとして「小さな拠点」づくりが注目されている。地域ごとのランドデザインを描き、その意見をまとめ、地域振興に反映させるのが行政の役割だと考えるが、町内の実態は、また、赤名地区には役場があるため、自治振興組織の拠点施設がないと嘆く住民がいる。拠点施設の整備をすべきと思うがどうか。

A地域の意見を伺い考える

町長塚原隆昭

5つの拠点形成を目指した地域運営の仕組みづくりに取り組み、現時点では谷・志々の2地区で形成されている。今年度は、来島地区では



来島地区計画づくりの様子

地区計画の作成に取り組み、拠点づくりが進んでいる。赤名・頓原地区では、町職員や集落支援員がサポートし、話し合いが進められている。引き続き支援を行う。

赤名地区の拠点施設が必要だという意見は、集落実態調査においても地域の現状や課題が共有されているが、具体的な話し合いが進んでいない。地域の意見を伺い今後の対応を考える。